PTAよこはま

第172号

横浜市Ｐ連ＨＰの
２次元コード

発行日／2023年７月10日　発行者／横浜市ＰＴＡ連絡協議会　横浜市西区花咲町6−145 横浜花咲ビル3階　編集／2022年度 常置広報委員会

第40回よこはまファミリー写生大会

横浜市PTA連絡協議会主催　令和５年４月23日　９時30分～14時

今年で40回目となる、よこはまファミリー写生大会が新横浜公園にて開催されました。お友だち同士、ご家族揃ってたくさんの皆さんが参加してくださいました。

４年ぶりの開催ということで、「久しぶりの開催なので楽しみにしていました」という声も聞かれ、参加者の皆さんのワクワクした気持ちが伝わってきました。

会場は緑や花に囲まれ、絵の題材になる風景でいっぱい。その風景を画用紙に閉じ込めようと、一人一人が題材に心を向けていました。

●横浜市小学校図画工作教育研究会会長　寺澤みゆき先生

学校で絵を描くのは学校の先生と子ども。この写生大会は家族で絵を描くというのが良いですよね。先生方に絵を見てもらう際に、「両方（お子さんと親御さん）の絵を見てください」と多くの方が言われます。写生大会を通して親子のコミュニケーションがとれているなと感じます。

昨年までは自宅や学校で描いた絵を送ってもらいコンクール審査を行っていました。写生大会の絵は送られてくる絵とは少し違います。昨年は校舎や地域の公園の絵が多くみられました。それも良いものではありましたが、この場、この公園でしか描けないものがあります。こういう機会があると「写生大会に行ってみよう」という気になり一歩踏み出せると思います。

大人も子どもも皆で、家族で絵を描くきっかけになりますね。

●指導講評担当の先生方

◉周りの様子をよく見て描いているなと思いました。色の使い方がとても上手ですね。絵が好きな気持ちが子どもたちから伝わってきます。とても雰囲気のよい大会になったなと思います。

◉皆さん、のびのびと色々な色を使って描いているなと思います。明るくて幸せな絵になっていますね。自分で色を考えたり好きな風景を選んだり、「これがいいな」と思った気持ちが素直に描けているのがいいなと思います。この感覚を大事にしてほしいです。

◉親子で絵を描くというのがいいなと思いました。お子さんが普段何を考えているかとか絵を見て話ができるので、「ファミリー写生大会」というのはこういう良さがあるのだなと思います。

表彰式の様子

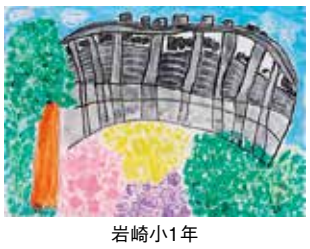
●参加者の声

子ども▶おばあちゃんと絵葉書の交換をしているので、この絵も絵葉書にして送りたいな。
子ども▶コロナでずっと絵画教室に行けなかったので、今日を楽しみにしていました。
お母さん▶自分が小学生の時に参加しました。懐かしいです。開催できて良かったですね。など、楽しむ声ばかりでした。

●協賛社ぺんてる㈱　高橋社長

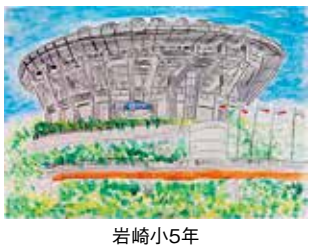
社長になって初めての参加となります。私は教職の免許を持っているので、子どもたちのこういう雰囲気が懐かしいです。教育実習を思い出します。

横浜市長賞



岩崎小1年

綱島小3年



岩崎小5年

教育長賞

神橋小2年

青葉台小6年

横浜市ＰＴＡ連絡協議会研修会

「親が変われば子どもは変わる」

『みんなの学校』動画視聴

講演　木村泰子先生

令和５年１月30日、関内ホールの大ホールにて、大阪市立大空小学校初代校長木村泰子先生の講演会及び映画『みんなの学校』の動画視聴が行われました。

「すべての子どもの学習権を保障する」という理念のもと、教職員や地域の人たちの協力で設立された大阪市立大空小学校には、さまざまな事情を抱えた子どもたちがいます。先生方は、これまでの自分の指導力が大空小学校で通用しないのはなぜか、からのスタートだったそうです。子どもを変えようとすればするほど子ども相手に出してしまうその力は、時に脅迫めいてはいないか？　と問い直し、ベテランの先生がつぶやいた「これまでの指導力は、もしかしたら洗脳力だったのではないか」という言葉で、子どもを変える前に自分を変えようとやり直しを始めます。そして、「私たちだけでは無理。学校は一緒に作るものだ」と親や地域の方々と共に大空小学校を作っていくのです。

講演会表題の「親が変われば子どもは変わる」は、言い換えると「人を変えることはできないが自分は変えられる」ということ。一人一人が変えるよう行動しないと学校も社会も変わらないのです。

講演会では『みんなの学校』に登場していた子どもたちの10年後についても触れられ、木村先生に代わりシンポジウムで見事なスピーチをした子、難関大学に合格した子、Ｊリーガーになった子とさまざまに活躍していらっしゃると笑顔で語ってくださいました。

そんな彼らの共通点は、「自分のような子に自分がやってもらったことを返したい」という思いでした。自分が困っていた時、やり直ししていた時に、先生や地域の方が心配して声をかけてくれたことが今の彼らにつながっている。地域の力で子どもは育つということを彼らは証明してくれたのです。

講演会冒頭、木村先生は「親が自分の子どもを育てることができると思いますか？」と質問されたのですが、最後「正解なんてどこにもない。目の前の子どもに対してイライラすることはいっぱいあるけれど、この子の10年後の姿を想像しながら、子どもに学ぶ大人に自分を変えよう。人のせいにしない学びを、これがみんなの学校です。困ったら人の力を活用する大人になっていきませんか」とおっしゃっていました。

笑いがありつつも、参加されている方々が涙する姿が印象に残る講演会でした。

ここに母校あり ～未来に羽ばたけ～

横浜市立 金沢高等学校

横浜市立金沢高等学校は、昭和26年４月に開校し、今年創立72年を迎えます。２年前にはコロナ禍でしたが70周年記念式典が校内放送で行われ、記念品も贈呈されました。

また、本校の特色は大きく４つあります。

一つ目は、平成22年度以来、教育委員会より「進学指導重点校」の認定を受け、基礎学力試験や校内模試の分析、自習室の開放など、自主的な学習活動を支援するさまざまな試みに取り組んでいることです。

二つ目は、隣接する横浜市立大学と「連携特別講座」、「プラクティカルイングリッシュ」などの高大連携を行っていることです。

三つ目は、国際理解教育として2015年９月にアメリカ合衆国サンディエゴにあるミッション・ベイハイスクールと姉妹校提携をし、毎年１・２年生の20名が同校を訪問し１週間の研修旅行を実施しています。

また、隔年でミッション・ベイハイスクールの生徒が本校に来校し交流を深めています。昨年度、一昨年度は、新型コロナウィルス感染拡大防止のため現地訪問は中止となりましたが、オンライン交流会を続けてきました。現在はサンディエゴ高も加わり３校での交流を深めています。

四つ目は、地域での社会貢献活動です。海の公園でのビーチクリーン、花壇植栽教育ボランティア、福祉委員会などによる地域清掃や部活動でのスポーツ教室などがあります。今年も３月に２年生が海の公園での清掃活動を行いました。

そして今現在、本校のPTA活動として、実行、広報、成人教育、保健、厚生、学年の６つの委員会があり、どの委員会も活発に活動しております。実行委員会は各委員会の事業や学校の行事についての話し合いなどを行っています。保護者に人気の事業は、成人教育委員会の観劇です。毎年60名前後の保護者が参加して観劇を楽しんでいます。

今年は新たな試みとして、大学見学バスツアーや横浜市立大学見学・本校の学食体験ツアーなどを予定しています。どれも魅力のある企画ばかりです。

広報委員会は、年２回、広報誌を発刊しています。これからの時期は音楽祭や金高祭の取材です。広報委員としての魅力は生徒の活躍を間近でみられることです。

厚生委員会は、主に金高祭へ向けての手作り品の作成・販売と、今年度新たに制服のリユースを行います。卒業生から制服などを提供してもらい、それを金高祭で販売するという試みです（制服は全てクリーニング済です）。

保健委員会は昨年度、新たな試みで金高祭に体の健康に関する情報の展示を行いました。

学年委員会は５月に行われる進学・教育懇談会や10月に行われる進路講演会を開催しています。どの会も保護者の参加率が８割と好評です。

以上で横浜市立金沢高等学校の紹介は終わりますが、「そ、イチカナは全部やる」をキャッチフレーズに学校全体がなんでも力いっぱい取り組む姿勢が印象的な学校です。これまで輩出した23，000人を超える卒業生が、社会のさまざまな分野で活躍しています。

横浜市立学校紹介

～もっと知りたい！みらいへの取り組み～

北綱島小学校 港北区

共に学び、共に育つ
～北綱ならではの取り組みでつながる輪～

「公助」と「共助」。北綱島小学校の日常が徐々に戻ってきています。地域全体で行う防災教育や、校舎内の渡り廊下で行き来できるほど身近にある特別支援学校との交流に力を入れている北綱島小学校。こうした取り組みを通じて、「心をあわせ　あかるくのびる　北綱の子」について月橋校長先生にお話を伺いました。

○大規模な防災訓練で地域と繋がる

北綱島小学校は防災教育に注力。東日本大震災を機に取り組みが始まり、現在は地域一丸となって1,000人規模の防災訓練を行っています。内容は多岐にわたり、朝地震が起きた想定で地域の集合場所に集まり皆で学校まで避難したり、起震車体験や要援護者の搬出を学んだりなどさまざまで、６年生と地域の方とでバケツリレー競争を最後に行うのが目玉です。今年は横浜市安全教育推進校に指定されており、10月に地域外からの見学者も受け入れ大々的に行う予定だそうです。

こうした取り組みから子どもたちは実践的な防災知識だけでなく地域の方々との連携や協力し合う意識を学びます。

○横浜市立で唯一、校内の渡り廊下で繋がる北綱島特別支援学校との関わり

コロナ禍前は、休み時間や交流授業など決まった時間に渡り廊下から支援学校に出向き、校内見学、音楽の授業やお楽しみ会などを行ってきました。この活動を通じお互いを知り理解を深め個性を尊重しあうことを学びます。すると入学したばかりの頃は車イスなどを不思議そうに見ていた児童も、６年生になる頃にはそれが当たり前の環境・当たり前の日常と思うようになるそうです。コロナ禍中は以前のように交流できなくなってしまいましたが、校長先生自ら支援学校に関する動画を撮影しテレビ朝会で放送するなど交流が絶えないよう工夫していたそうです。コロナ収束が見え始めた昨年は、それまで毎年行われていた合同運動会を３年ぶりに開催しました。全力で一緒にダンスを踊るなど久しぶりの交流を楽しみました。今年度は合同運動会はもちろんのこと、その他の交流もたくさんしていけたらと計画しているそうです。

防災拠点の目玉「バケツリレー」

コロナ禍でも絶えない交流
「ふれあいけいじばん」

若葉台特別支援学校 旭区

焼きたてパンの香り漂う学校!?
～優しさ育み　共に新しい時代へ～

横浜市立で唯一、肢体不自由（A部門小中高校）と知的障害（B部門高校）が同じ校舎で学んでいます。

一人ひとりを大切にした教育は地域のみなさんに支えられながら自立と社会参加を目指しています。

○地域交流の学び場 自然とのふれあい

この学校は緑豊かな環境です。大きくなった木を地域のボランティアさんが剪定してくださる習慣があります。枝に鳥の巣を見つけた時には木登りができない車椅子の子どもたちにも見せることができました。もちろん鳥の巣には鳥もたまごもいませんでしたが、このようにして巣を作る鳥を想像する喜びと驚きの声があがりました。

これから社会に出て行く子どもたちにとってお互いに自己肯定感・自尊感情が育つ環境です。

この３年間の制限を体験し、DX（デジタル・トランスフォーメーション）の導入を準備、アイディアはますます加速します。

「A・B交流演技」パラバルーンの下にA部門の子たちが見え隠れ

A部門

肢体不自由のお子さんは、一人ひとりの実態に即した学習をしています。障害の状態によって、通学が困難な場合には訪問教育を行い、生徒に合わせた内容になっています。B部門の生徒たちとの交流は日常的にあり、同年代の子どもたち同士のコミュニケーションは笑顔が溢れます。

B部門

就労につながる学習の一環として校内にカフェが併設されていて、生徒たちが作るパン工房があります。お昼には焼きたてのいい香りが学校内に漂い、一般のお客さまを迎えます。その他にオフィスサポート・ビルメンテナンスのコースはA部門とのふれあい交流を経験し、優しい心が育ちます。

南希望が丘中学校 旭区

発想できて、発信できる力

生徒からデザイン募集。エコバッグ完成！

緑と花々に囲まれ、市内でも珍しいビオトープ委員会のある南希望が丘中学校では『校内ハートフル事業推進校』『ESD（SDGs達成の担い手育成）推進校』にプラスして、今年度より『中学校給食推進校』としての取り組みも始まりました。１年生の喫食率は約80％弱。教職員の喫食率も高くなってきています。「アレルギー対応がない」「栄養面で子どもの好きなものばかりではない」など、さまざまな意見がある中で、推進校として課題を見つけ、令和８年度全校実施へ繋げていきたいと考えています。SDGsに取り組むことで、残食率低下や食品ロスについて子どもたちの意識も高まっています。

そして、今や見かけない日はない言葉「SDGs」ではありますが、生徒たちの日々の生活にここまで浸透しているとは！オドロキです。昨年度まで活動の中心は保健委員会でしたが、今年度からは学校全体、全ての生徒へ広げていきます。SDGsの17の目標に絡めて各委員会の年間目標を立てようと、今、ちょうど動き始めたところです。生徒たちは素直に、これが達成しなければいけない目標であることを感じているようで、地域の方からの講演会へのお誘いも「行きます！」とすぐ返事があり、さらにその内容を新聞にまとめ学校へ提供。意識の高さを感じました。

またESD推進校として、学校内でエコバッグを作りたい！と声があがり、企業と協力し作成しました。素材はプラスチック削減の目的でペットボトルの再生で作られています。デザインは生徒から募集し、投票で決めました。エコバッグは生徒と地域の方へ配布しました。またファーストリテイリングが取り組む参加型学習プログラムの『服のチカラプロジェクト』は一昨年度より学校として取り組んでおり、今年度も継続していく予定です。今年度は回収ボックスの設置の場所を増やしていけたらと思っています。

生徒が「発想できて、発信できる力」を養う機会が、南希望が丘中学校にはたくさんありました。

生徒によるレッドカップ販売の様子

『服のチカラプロジェクト』
たくさんの服が集まったよ!

日野南小学校 港南区

地産地消にカードゲーム？
～体験を通じたSDGsへの取り組み～

SDGsとは何か。子どもたちへどのように伝えていくべきでしょう。持続可能な開発目標？…説明するとなると、難しいですよね。日野南小学校での取り組みを、ほんの一部ですが紹介します。

○地産地消とカラフルトマト冷麺

地産地消に力を入れている食堂さんと協力して、港南区内の食材を使ったメニューを考えました。卵、トマト、甘夏など、見つけ出した港南区産の新鮮食材は「カラフルトマト冷麺定食」となり、実際に１カ月限定メニューとして食堂に並んだそうです。実際に消費までされている様子を見ることができ、地産地消を実感することができました。

○売れ残りをなくすアイデア

地域のお楽しみ会で、区内の農家さんとお惣菜を売り出すことになりました。皆で「売れ残らないようにするには？」と考えたそうです。その結果生まれたのが、「集めたくなるカードを作ってオマケにつけよう！」というアイデア。とても好評で、売り切ることができたそうです。

○SDGsカードゲーム

今年の１月にはSDGsを推進する企業に協力を仰ぎ、「SDGsカードゲーム」を用いた出前講座が開催されました。豊かな世界とは何か、そのために自分ができることは何か。これまでの体験も踏まえ、子どもたちにも親しみやすいカードゲームという形式を通じて、SDGsのベースとなる考え方を感覚的に学ぶことができたのでした。

他にも古着のリサイクル・リユースに参加してみたり、日野南小学校ではまずなにより体験、体感してもらうことに意義をおいているように感じました。

実際にやってみて、自分で考えてみて、探究心を刺激する体験を通じて他者や社会とのつながりをも考えるようになっていて、気づけばSDGsにもつながっていた。これは一番心に残る、腑に落ちる学び方かもしれませんね。今回お話をしてくださった先生の、「私も楽しい」という言葉も印象的でした。

見た目も華やかなカラフルトマト冷麺

集めよう、ベジタブルカード！

鴨居中学校 緑区

和みルームの取り組み
～学校を全ての子どもの居場所とするために～

和みルームの入口の看板

和みルームの１日は「google meet」の学活から始まります。登校して、自宅から、顔出し声出しNGでもOK!　その日の体調や気分を共有する大切な時間です。

令和元年、特別支援教室を“和みルーム”と命名、経済産業省の実証事業として活動は始まりました。その後、横浜市「不登校児童生徒特別支援事業（現校内ハートフル事業）」のパイロット校として支援員が常駐となり、活動の土台となる“生徒との信頼関係”が築きやすい環境が整いました。

部屋の入り口には、各人の今日の予定を記入したボードがあります。和みルームからオンラインで授業へ参加、学習支援アプリや AIドリルで自主学習、体育の授業に参加などなど、各自主体的に予定を立て１日を過ごします。活動内容は、先生と保護者が直接繋がるコミュニケーションツール「スタディプラス」で家庭に共有します。ツールの活用で、スムーズな相談、ベストタイミングの支援開始が可能になりました。

卒業後の進路を見据え、近隣のサポート校や民間企業と連携した説明会の実施、令和４年には社会との繋がりをより意識できるよう、横浜Ｆ・マリノスのサッカー教室やサイボウズ社の会社見学も行いました。大人と関わる事で、普段会話をする事が苦手な生徒も積極的に発言するなど、新たな一面を引き出せたそうです。

「地球上どこにいても鴨居中の生徒である」そんな意識で取り組んでいる鴨居中学校の先生方。インタビュー当日も県外にいる生徒と面談をされていました。一人ひとりに寄り添ってくれる先生とどこでも繋がる安心感が生徒の心の支えになっているように思いました。

長島校長先生は、地域での農業体験も検討するなど、こうした取り組みを保護者・地域の方に知ってもらい、同じ想いを持って子どもたちの自立を支え、見守って欲しいとお考えでした。 取材を通して、周囲の理解の大切さを改めて感じました。

大学生のボランティアの方もいらっしゃり、とても和やかな雰囲気でした。

熱く想いを語ってくださった長島校長先生と担当職員の方々の優しい笑顔が印象的でした。

キリトリ

夏休みは“そごう美術館”に行こう！

光と遊ぶ超体感型ミュージアム
魔法の美術館
横浜市立学校PTA関係者 特別鑑賞券

本券ご持参の方は、一般1,200円のところ［無料］でご入館いただけます。
※会期中1回限り1名さまのみ。※本券に所属学校名のご記入のある方のみ。

■ 2023年8月1日(火)－9月10日(日)　会期中無休　事前予約不要
■ 10時～20時　※8月16日(水)は19時閉館
（入館は閉館の30分前まで）
そごう横浜店の営業時間に準じ、変更になる場合があります。

そごう美術館　横浜駅東口/そごう横浜店6階　☎ 045-465-5515

■ご入館前にそごう美術館ホームページおよび会場入口掲示の「ご入館の際のお願い」をご確認ください。
■展示の内容が変更になる場合がございます。■最新情報はそごう美術館・そごう横浜店ホームページをご確認ください。

写真撮影OK

※学校名を事前にご記入の上、受付にご提示ください。

学校

PTA 考えてみよう
2023年度　第15回　「市Ｐ連三行詩コンクール」
三行詩　募集

・三行詩とは三行程度の短い詩という趣味で俳句なども含まれます。
・48文字以内。　・ご自身の作品であり、未発表作品に限ります。
・お一人につき、一作品の応募でお願いいたします。

テーマ　「命の大切さ」「みらい」「家族のきずな」
テーマに沿った短い詩をご応募ください。

募集期間　令和５年7月6日(木)～令和５年9月15日(金)

募集対象　児童生徒の部（小学生・中学生・高校生・特別支援学校）
一般の部　（保護者・家族・教職員）

選考方法　市Ｐ連、横浜市教育委員会指導主事で優秀作品を選定し、入選者には表彰式にて賞状と記念品を贈呈します。
また優秀作品を掲載したカレンダーを発行予定です。

発表　市Ｐ連ホームページにて発表し、「PTAよこはま」173 号や作品集、本資料等に掲載します。

応募用Webフォーム

お問合せ　横浜市 PTA 連絡協議会事務局　☎045-341-0181　ycity-pta-7080@car.ocn.ne.jp

もしもの時は、スピーディーに保険金をお支払いします！
原則3営業日以内にお支払い！
入ってよかった

デジタル保険金請求
ケガによる入院・通院または持ち物の損害
オンラインで簡単請求
24時間365日
いつでも、どこでも受付はます！

簡単支払特急便
ケガによる入院・通院、病気による入院・手術で10万円以下のご請求は
電話による事故報告のみ
受付時間　月～金曜日 9:00～17:00（土・日・祝日・年末年始を除く）

ご利用には条件がございます。ご利用条件とご利用方法は、後日送付する加入者証でご案内します。
※ 持ち物の損害は「学校管理下動産補償特約」/「携行品損害補償特約」が付帯されているプランの場合にご利用いただけます。

その他の保険金請求は…　スケール事故受付ダイヤル（24時間受付）　0120-300-399

B-210318

横浜市P連 子ども総合保障制度

当制度は、児童・生徒のケガや賠償事故等、日常生活中に想定される様々なリスクに対応した総合保障制度です。

●このご案内は、制度の概要を説明したものです。
特長その1　市P連の団体契約だから、約33%割引　※当社における当該保険料の基準となる保険料に対しての割引表示となります。
特長その2　児童・生徒のほかご家族の自転車事故や偶然な事故による個人賠償責任も最高 無制限（国内）で補償（示談交渉サービス付き）
特長その3　お子さまのおケガを1日24時間補償（学校が休みの日も補償）
特長その4　お子さまが日射・熱射によって熱中症を発病した場合に補償
特長その5　地震・噴火・津波によるケガも補償（育英費用も補償）
特長その6　ケガによる入院・通院、病気による入院・手術で10万円以下のご請求は電話のみで簡単請求（※ご利用にあたって諸条件があります。）

2023年6月現在の内容です。
※プランによってセットされている補償内容や保険金額が異なります。詳しくは以下連絡先へお問い合わせください。

制度に関するお問合せ先　株式会社 ジーアンドケイ・アソシエイツ「子ども総合保障制度」係まで
TEL：0120-916-818（通話料無料）　受付時間：9：00～17：00（土、日、祝日、年末年始を除く）
引受保険会社：AIG損害保険株式会社　S-230551（2024-05）

新会長（2023年度）挨拶
東　隆幸

常日頃より子どもたちのために、さまざまな活動に対し多大なご尽力をいただいておりますこと、心より感謝いたします。横浜市でPTA活動が始まってから今年で74年になります。長きに渡り活動が継続しているのは、ひとえに「子どもの成長を願う親の想い」だと確信しています。その「想い」を会員の皆さまと共有し、また時代の変化の中で、今横浜市P連に何が求められているかを意識し活動してまいります。

前会長（2022年度）挨拶
竹原　浩太郎

横浜市PTA連絡協議会のスローガンは「おとなも育とう、こどもと共に～つながる想い新しい時代へ～」でございます。こどもたちのためのPTA活動が、おとなを成長させて、子どもたちに還元されます。

また、昨年度は横浜市P連の役員や理事、常置委員をはじめ多くのみなさまと、つながりの価値を共有しながら活動を行うことができました。今後とも、みなさまのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

2023年横浜市PTA連絡協議会役員・会計監査

《後列左から》
書記：原澤　雅和（港南区港南中学校）
書記：稲垣　　新（高等学校部会東高等学校）
書記：木宮　依子（金沢区並木中学校）
会計：宇積　　悠（保土ヶ谷区川島小学校）
会計：髙杉　陽子（戸塚区豊田中学校）

《前列左から》
副会長：松本　雅威（旭区鶴ヶ峯小学校）
会　長：東　　隆幸（特別支援学校部会 盲特別支援学校）
副会長：倉根　美帆（栄区小山台中学校）
副会長：玉川惠美子（都筑区中川西中学校）

《会計監査》
竹原浩太郎（都筑区茅ヶ崎中学校）
髙須　晴子（高等学校長会戸塚高等学校長）

《副会長》

藤崎　健児
小学校長会
杉田小学校校長

米盛　司
中学校長会
横浜吉田中学校校長

2023年度横浜市PTA連絡協議会総会開催

6月19日、今年度も神奈川県民ホールにて会場開催いたしました。ご多用のところ、ご参加いただきました皆さまに心よりお礼申しあげます。議案は全て原案通りに可決承認されました。

【議事】
2022年度:事業報告、会計報告・監査報告
2023年度:理事候補者（案）、役員・会計監査候補者（案）、スローガン（案）、活動（案）、事業計画（案）、予算（案）

令和５年度 横浜市ＰＴＡ 新任役員研修会

4月17日、関内ホールにて横浜市ＰＴＡ新任役員研修会第１部が開催され、約２００名の小・中・高・特別支援学校ＰＴＡの新任役員が参加しました。

第１章では「がんばれ、ＰＴＡ！きみたちは最後の砦だ」をテーマに、横浜市教育委員会、学校支援・地域連携課学校連携・こども担当の本村淳一氏による講演が行われました。役員のなり手不足が問題になっている現状を踏まえ、「ＰＴＡは任意制保護者連携協働クラブとも言い換えられる。みんなで子どもたちを守り、育てるために必要不可欠」とのお話がありました。そして、ネガティブな面がクローズアップされる昨今において「ＰＴＡ活動の大切さや意味を保護者や地域などに向けて発信することで、ポジティブな考え方へ変えていく必要がある」と言う提言がありました。また、小学校校長を務めた経験から「ＰＴＡは学校を守る最後の砦。学校教育は保護者の信頼、信用と連携協力があればこそ。学校の応援団として先生方を支えてほしい」と、学校の視点での要望もありました。さらに、子どもたちがよりよく育つ学校の実現には、地域とのつながりが重要であることを強調されていました。「いろいろ大変だけど、がんばれＰＴＡ！」との力強いエールとともに講演が締め括られました。

第２章では、ＰＴＡの経験事例紹介として、東汲沢小学校、並木中学校、みなと総合高等学校、二つ橋高等特別支援学校の発表がありました。

「２０２２年度優良ＰＴＡ文部科学大臣表彰」を受賞した東汲沢小学校ＰＴＡからは、役員のなり手を増やすための工夫や、自宅で活動に参加できる「１ｄａｙサポーター」制度など、独自の取り組みが紹介されました。地域と連携しながら、子どもたちのために楽しく活動する様子が印象に残りました。

第３章の参加者同士の意見交換では、日頃の活動における問題点などを積極的に話し合う様子が見られました。

研修会第二部はオンライン形式で開催され、横浜の学校教育やＰＴＡ活動について理解を深めるよい機会となりました。

令和４年度 ＰＴＡ広報誌コンクール ●受賞校と作品詳細

令和４年度横浜市ＰＴＡ広報誌コンクールに応募された作品の中から、次の作品が選ばれました。小中学校の作品は、日本ＰＴＡ全国協議会『全国小中学校ＰＴＡ広報誌コンクール』に横浜市ＰＴＡ連絡協議会より推薦されます。

神奈川新聞社賞・会長賞

あかね台中学校（青葉区）
「あかね台」

体育祭と遠足などの特集号は写真の質量ともに抜群。バラエティーに富んだ構図で生き生きとした学校生活が伝わる。３月号の「10年後の自分へ伝えたい４字熟語」のページは、大胆なレイアウトが秀逸。

広報委員長賞・会長賞

山内小学校（青葉区）
「欅」

先生、生徒、保護者の関係性が良いことが紙面から伝わってきました。山内小公式キャラクターの「ケヤリーフ」からＰＴＡ活動も積極的活発な素晴らしい活動をされているのだろうと想像しました。

会長賞

●笠間小学校（栄区）
「そよかぜ」

月１ペース、年間10回と言う圧倒的な発行回数を誇る労作。回数に比例し、年間を通して伝える情報量も他を圧倒するボリュームで、その内容はバラエティー豊か。作り手の熱意が伝わってくる。

●上寺尾小学校（鶴見区）
「かじの葉」

年に１度限りの「渾身の１冊」に、多種多様なテーマを盛り込んで読み応えが充分。特に、プロ野球阪神タイガース青柳晃洋投手来校特集は、見出しや写真、レイアウトが巧みで読ませる。

●中丸小学校（神奈川区）
「なかまる」

１６３号「春　出会いの季節」の表紙デザインが秀逸。いずれの号も文章や写真を詰め込みすぎていないところに作り手のセンスが光る。加えて巧みなレイアウトで読みやすく見やすく仕上げた。

奨励賞

鉄小学校（青葉区）
中田小学校（泉区）
二谷小学校（神奈川区）
白幡小学校（神奈川区）
並木小学校（金沢区）
新羽小学校（港北区）
矢上小学校（港北区）
六角橋中学校（神奈川区）
日吉台西中学校（港北区）
十日市場中学校（緑区）
中山中学校（緑区）
東俣野特別支援学校（特別支援）

●富士見台小学校（保土ヶ谷区）
「芙蓉峰」

色使いを含むレイアウトが巧みでとても読みやすい。特に「富士見台小学校70周年今昔物語」は、２人の卒業生インタビューや多数のモノクロ写真を活用して充実の内容に仕上がっている。

●旭北中学校（旭区）
「旭北中」

39年の歩みを振り返る閉校記念号は、見開き４ページの力作。新旧の写真をふんだんに使い、どの年代の卒業生が見ても懐かしい思い出がよみがえる。他ページもレイアウトが巧みで読みやすい。

●西谷中学校（保土ヶ谷区）
「西谷中」

巻頭の「百枚写真展」は、修学旅行や文化祭、体育祭などで撮影した写真のバリエーションが豊かで、楽しい雰囲気が伝わってくる。新制服の紹介は、男女４人の先生をモデルにしたのが斬新。

●日吉台中学校（港北区）
「日吉台」

写真から生徒一人一人の表情を読み取ることができる分、確実に読み応えが増す。写真の数を優先したり、あえて生徒の顔が見えないようにしたりする広報誌が多い中、存在感が際立っている。

●横浜サイエンスフロンティア高校（鶴見区）
「ＹＳＦ-ＰＴＡだより」

文化祭の企画展示内容を紹介する巻頭特集は、質の高い写真とそのキャプションを満載していて読み応え充分。「進路フォーラム２０２２」の記事で、４人のＯＢの講習要旨を満載した点もよい。

●戸塚高校（戸塚区）
「光陵」

体育祭特集の見開き１ページ目は写真を詰め込みすぎず、生徒の表情が読み取れるため臨場感が伝わる。巻末の学校紹介「戸塚高校たんけん」は横浜市立ならではの充実した施設を一覧できるのが良い。

●港南台ひの特別支援学校（港南区）
「みどりの風」

卒業特集号、教員一人一人の手書きのメッセージが温かく、生徒一人一人の顔写真を大きくあしらっている点も良い。卒業生がずっと保存しておきたくなるような内容に仕上がっている。

編集後記

さまざまな活動が再開し、本誌内容にも以前のような活気が戻ってきました。172号発行にあたりご尽力いただきました皆さまに心より感謝申し上げます。これからも子どもたちが健やかに成長していけるよう、大人も大切なものを見極めながら支えていけるPTAであれたらと思います。